歴史の道をゆく

風はるか、秋田藩の羽州街道

③久保田から檜山まで

久保田城下における羽州街道の起点は大町三丁目で、通町から西に折れ矢橋村（八橋）に入った。「八橋」「里塚」の近くには山王堂の日枝神社が三重の塔を従えて鎮座している。

矢橋から現面影橋で草生津川を渡る。久保田以北の街道の様子は、江戸後期、秋田藩士荻津勝孝によって描かれた「秋田街道風俗絵巻」に詳しい。矢橋村の全良寺山門を過ぎて寺内村に入った旧国道と重なる街道には今も松並木が数本残って往時の面影をとどめている。

秋田城址のある寺内山には秋田城を守護した古四王神社がある。参道入口西側に大小路の古道が残り、沿道には伽羅橋（香炉木橋）や五輪塔、菅江真澄の墓などがある。

❶

❷

❸

土崎湊入口の穀保町から御蔵町を旧国道に沿って進むと町の中心部となり、古くからの商店が立ち並ぶ湊町を通る。藩政期に佐竹氏が秋田に入る以前は、安東氏がこの土崎湊に城を築いていた。藩政期、土崎湊は雄物川を下る年貢米の荷上地となり、藩の御蔵に納められた。

また湊には日本海を通じて北前船など来航も多く、町は廻船問屋を中心に大いに栄えていた。湊は流通の面から藩の財政をしっかりと支えていたわけである。湊を離れ相染から飯島までは旧国道沿いの道だったが、堀川から追分までは現国道7号の西側を通っていた。

❹

❺

追分が羽州街道と男鹿海道の分岐点であるのは今も同じで、北上する羽州街道は、牛坂、大清水と進んで大久保（昭和町）に入った。幕府巡見使に随行した古川古松軒は『東遊雑記』に、このあたりを「砂地の野原」と表現しているが、まさに沿岸の飛砂がつくる砂丘の道だった。

大久保は久保田以北の最初の宿駅で、享和二年（八〇二）『測量日記』を書いた伊能忠敬が通った時は、家数二五〇戸の大集落となっていた。八郎潟東岸の道を北に進み下虻川神明社前（飯田川町）を過ぎ、豊川を渡り虻川本村に入った。和田妹川では旧国道をわずか離れ、飯塚、浜井川（井川町）を通り、稲田の道をしばらく行って大川村（五城目町）に入る。馬場目川のコエバ（越場）を過ぎると一日市村（八郎潟町）となった。一日市には御本陣が置かれ、街道の駅となっていた。宿駅支配は檜山所預の多賀谷氏となっていた。

❻

❼

八郎潟に面した一日市は水陸交通の便に恵まれたため三斎市が開かれ、それが地名の起こりとなったという。一日市から夜叉袋の細長い街村を過ぎると湖東通り秋田郡最北の真坂村。三倉鼻に羽州街道が開かれる以前、中世には、筑紫岳のある鵜船長根の東、高岳山の鞍部を通る五輪坂から檜山郡の市野村（琴丘町）に山越えしていた。

鹿渡（琴丘町）では中央公民館前に残された担丁石碑が珍しい。藩政期の道普請の持場を示したものとして貴重である。

琴丘町新屋敷から羽州街道は現国道7号をまったく離れ、森岳（山本町）、檜山に続く丘陵地帯の道となる。森岳は昔、森岡村と呼ばれ、檜山や大館支城往還の重要な中継地で南山本郡奉行所や御本陣があった。秋田藩主の領地巡回や鷹狩り、津軽藩主の参勤交代と、森岡村と豊岡村が交替で御本陣と宿駅の役目を果たしていた。

森岡と豊岡の間にある飛塚坂には中世の板碑と経塚が残っている。金光寺は能代道とも呼ばれた大間越街道との追分であった。中世、秋田安東氏の一族が争ったいわゆる湊合戦には、この先の志戸橋の原野も戦場になったといわれる。大森、赤坂は現在の能代市区域で、檜山に続く山道となる。

檜山は由緒ある史跡の里となっているが、檜山安東氏が霧山城に拠って領国支配をした後、佐竹氏の所預として小場氏（後に大館西家の佐竹氏となる）や多賀谷氏が支配した。檜山の谷間にある多宝院は多賀谷氏の菩提寺として、また安東氏ゆかりの楞厳院には室町期の風情をとどめる山門が修復されて残されている。

❽

❶伽羅橋
秋田市寺内にある伽羅橋
菅江真澄の墓への登口に架かる橋で、かつてこの橋のすぐ下方まで旧雄物川の舟着き場があった

❷菅江真澄の墓
文政12年（1829）角館町神明社で亡くなったとされる菅江真澄の遺体を、門人の鎌田正家（まさやか）らが寺内高清水の地に運んで墓を建てた

❸「秋田街道風俗絵巻」に描かれた文化期（1804～1818）頃の土崎湊の様子。
当時の土崎湊の繁栄ぶりがよく表現されている。
荻津勝孝作（秋田市立千秋美術館蔵）

❹飯田川町の下虻川神明社に残る秋田藩2代目藩主、佐竹義隆の手植えと言われる槻の木

❺琴丘町山谷の一里塚跡
かつてはここに塚があり松の木が植えられていたといわれる

❻菅江真澄による『かすむつきほし』より森岡の鼈桜（複製）（秋田県立博物館蔵）
現在の山本町森岳。鼈桜という名前から一里塚に桜の木が植えられていた事が考えられる

❼能代市檜山の多宝院
多賀谷氏の開基で、佐竹氏が秋田移封の際従って仙北郡白岩に移った後慶長15年（1610）に檜山に入る。天和3年（1683）に現在地に移る

❽檜山追分旧羽州街道松並木
檜山から鶴形への羽州街道沿いに植えられた松並木。秋田藩が天和元年（1681）に街道整備のあと植えたものといわれ推定樹齢200年の黒松が13本残っている